

「食材王国みやぎ」推進優良活動表彰応募・推薦書

1 応募部門 ※応募するいずれかの1つの部門に○をつけてください。

<input checked="" type="checkbox"/> 地産地消	<input type="checkbox"/> ブランド化
--	--------------------------------

2 活動主体者（自薦者及び被推薦者）の概要

(ふりがな) 活動主体の名称	(さかまいさぽーたーずくらぶ) 酒米サポーターズクラブ
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	(きょうどうだいひょう すがわら あきひこ： (かぶ) おとこやまほんてん だいひょうとりしまりやくしゃちょう) 共同代表 菅原 昭彦：(株) 男山本店代表取締役社長 (きょうどうだいひょう さいとう かいちろう： (かぶ) かくぼし だいひょうとりしまりやくしゃちょう) 共同代表 斉藤 嘉一郎：(株) 角星代表取締役社長
(ふりがな) 所在地	〒988-0083 (けせんぬましりさわ) 気仙沼市入沢3-8
連絡先	非公開情報
活動主体の組織概要	酒米生産組織（清流「蔵の華」廿一会）、蔵元2社（株式会社男山本店、株式会社角星）、販売組織（福宿販売会）、事務局（気仙沼市産業部農林課）
確認事項	※活動内容が表彰の対象となった場合、表彰されるのはどちらか○を付けてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 活動主体組織 <input type="checkbox"/> 活動主体の代表者（個人）

3 推薦者の概要 ※自薦の場合は記載不要です。

(ふりがな) 組織名称	非公開情報
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	
(ふりがな) 所在地	
連絡先	

様式2、地産地消部門用

<地産地消部門活動について>

<p>1 活動の概要</p>	<p>※取り組んでいる内容を要約してください</p> <p>棚田地域で県が育成した酒造好適米品種「蔵の華」の契約栽培と地元の蔵元による気仙沼の地米酒ブランド「福宿（ふくやどり）」の醸造、酒販店の組合による販売に加え、関係者と市も連携して農作業体験を行うなど、消費者参加型の PR イベントも行うことで、生産・醸造・流通販売・消費者への PR を一貫して行い、農村振興、地産地消に貢献している。</p>
<p>2 活動のタイトル</p>	<p>※取り組んでいる活動に「タイトル」を付けてください。</p> <p>『地酒から地米酒へ ～酒米生産・醸造・販売・消費が一体となった持続可能な酒づくり～』</p>
<p>3 活動の継続期間</p>	<p>※取組や組織の発展過程などを時系列で記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1993年 現福宿販売会長ら気仙沼市の酒販店4者が集まり、地元の蔵元による地酒「福宿」を構想した。 市内蔵元の（株）角星に打診し、賛同を得て、醸造を開始。</li> <li>・1994年 「福宿」の販売開始。同じく市内蔵元の（株）男山本店も参加</li> <li>・2001年 販売を促進するために、参加酒販店42店による福宿販売会を設立した。 1997年に宮城県が育成した酒造好適米「蔵の華」が奨励品種（現優良品種）に指定されたことから、地元産米を使った「地米酒」の醸造により、さらなる付加価値化や酒米産地の確立による地域特性を活かした農業経営の実現による地域振興を志向し、地元生産者による生産組織設立の準備組織として「清流『蔵の華』廿一会」を結成した。 さらに、地米酒の推進に向け、蔵元2社、生産準備組織、福宿販売会、気仙沼市等による「地米酒づくり研究会」を発足した。</li> <li>・2002年 酒米生産組織として、「清流『蔵の華』廿一会」を発足。</li> <li>・2003年 以降、100%地元産の「蔵の華」を使用した「地米酒」ブランドとして「福宿」を醸造販売している。 また、「地米酒づくり研究会」や仙台市等の都市住民による「酒米サポーターズクラブ」を組織し、田植え・稲刈りイベントの実施による交流、新酒の試飲会等のPRイベントを開催し、知名度向上、販売促進を行ってきた。</li> <li>・2011年 東日本大震災により、酒造会社の社屋や酒蔵が損壊</li> <li>・～2020年 蔵元の本社、店舗、酒蔵等の再建 震災の影響を受けつつも、生産者、酒造会社、酒販店等が連携して、「福宿」の醸造・販売を継続してきた。 2023年現在、福宿販売会には30店が参加している。</li> </ul>

<p>4 活動の取組形態</p> <p>※別表1から該当する取組形態を選択してください。</p>	<p>中心として取り組んでいる取組形態 (複数選択可)</p> <p>カ・キ・ク・ケ・シ・セ・タ</p>	<p>関連する取組形態 (複数選択可)</p> <p>エ・サ・ス・ソ</p>
<p>5 活動等の詳細</p>	<p>(1) 活動を始めた契機</p> <p>※動機・目的等を記載してください。</p> <p>気仙沼は豊かな海産物に恵まれ、「海のまち」のイメージが強く、海産物と相性の良い日本酒の需要が大きい。市内には2つの酒造会社があり、高品質な日本酒を醸造してきたが、活動開始前は大手メーカーによる製品の流通が多く、イベント等でも「気仙沼」の地酒の比率は高くなかった。</p> <p>そこで、「気仙沼を代表する日本酒を作りたい」という関係者の願いから、県内初の酒造会社2社による合同のブランドの醸造を開始し、さらに地元の酒米を使用した「地米酒」づくりの体制を清流「蔵の華」廿一会(酒米生産者)、(株)男山本店・(株)角星(酒造会社)、福宿販売会(酒販店等)、気仙沼市が協力して確立した。</p> <p>(2) 活動の理念</p> <p>※メインテーマ、目標など、タイトルの説明等を記載してください。</p> <p>『地酒から地米酒へ ～酒米生産・醸造・販売・消費が一体となった持続可能な酒づくり～』</p> <p>酒米の栽培、醸造、販売を一貫して地域で行い、地産地消を推進することで、気仙沼という地域を持続的に発展させる。</p> <p>気仙沼市は中山間地域であり、水田農業には比較的不利な条件だが、酒米を栽培している風光明媚な棚田の保全など貴重な農村環境の保全や海産物とのコラボレーションにより観光面での寄与など、総合的に地域振興へ貢献する。</p>	

### (3) 活動の内容

※具体的な活動の内容、方法等を記載してください。

※必要に応じて活動内容に関する資料（写真、記事、チラシ等）を添付ください。

#### ①酒米生産

酒米の安定供給のため、生産組織「清流『蔵の華』廿一会」を組織し、県気仙沼農業改良普及センター職員を講師とした栽培研修会を定期的で開催し、会員間の相互巡回や技術交流を行ってきた。これにより、中山間地域かつ東北地方太平洋側特有のやませによる影響を受けるなど、条件不利地で安定した栽培を実現するための技術向上を図っている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため写真は

掲載しておりません

「蔵の華」ほ場

栽培研修会でのほ場巡回

#### ②醸造

蔵元2社が地元産の酒米による「地米酒」づくりを継続的に行うため、地元生産者と酒造好適米「蔵の華」（宮城県育成品種）を契約栽培し、全量買い取りを行っている。

地米酒ブランド「福宿」を蔵元2社が共通のブランド銘柄として醸造している。共通ブランドで知名度を高めつつ、純米酒、純米吟醸酒など様々なラインナップを確保している。



純米酒、純米吟醸種など多様な  
ラインナップ（写真は（株）角星の製品

小学校旧校舎を改装した醸造所（（株）角星）

### ③販売

「福宿販売会」に加入した酒販店による、気仙沼市内限定販売とすることで、地元に着した銘柄としてのブランディングを行うとともに、毎年、「新酒を楽しむ会」を開催してPRを図りながら地産地消を推進している。

### ④消費

関係機関が連携して、田植え・稲刈り等のイベントを行うことで、知名度向上に努めている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため写真は  
掲載しておりません

市内外から消費者が参加した田植えイベント（令和5年は5月27日に開催）

### (4) 活動の成果

※取組の進展の中で生じた、農林漁業者への意識や農林水産業の変化、活動に対する支持、信頼性、広がりや人材育成に対する成果などを記載してください。

蔵元2社との契約栽培により、廿一地区で約6haの「蔵の華」を作付けし、毎年25t程度の原料米が安定して供給され、醸造と農業経営の持続性が図られている。収量・品質は年々向上し、令和4年産は計画収量比17%増の多収を達成した。

コロナ禍による酒類消費の落ち込みで、対策緩和後に酒米の供給が不安定となった際も継続して供給することで生産を支え、地産地消の重要な柱となった。令和5年には、交流イベントへのメディア取材も増え、知名度向上が進んでいる。

「福宿」は気仙沼を代表する地米酒として認知され、年間約3000L、販売額約500万円を達成している（2022年現在、詳細は別表参照）。

また、ECサイトでは市外からの注文も多く、知名度の拡大やリピーターの増加など、さらに活動が拡大している。

市内産「蔵の華」の一部は各社の独自銘柄にも使用され、地産地消の拡大、気仙沼ブランドのPRにつながっている。

	<p>(5) 今後の活動の見込み</p> <p><u>※これからの取組の目標、将来への抱負などを記載してください。</u></p> <p>中山間地域の水田農業振興や生産者と蔵元が連携した高品質かつ需要に応じた日本酒の醸造・供給のための取組を継続していく。</p> <p>現在、蔵元2社の「蔵の華」使用料は約50tであり、約半数は市外産を使用しているため、安定供給に向け、地元生産組織と協議しながら、酒米の生産を拡大し、「福宿」以外の銘柄についても地元産米の比率を増やしていく。</p> <p>消費者との交流も強化しながらニーズに合った生産を行うことでブランド化やさらなる地産地消を進めていく。</p>
<p>6 活動のPRポイント</p>	<p><u>※上記活動等の詳細欄に記載した内容のうち、特にPRしたい点を箇条書きにしてください。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒販店と連携した地元密着型の販売活動</li> <li>・地元生産組織と連携した持続的な原料供給体制の確立 (生産者と酒蔵の情報交換による需要に応じた生産など)</li> <li>・県の指導機関と連携した酒米栽培技術の向上・高品質化の取組</li> <li>・生産者、蔵元、地元自治体による消費者との交流イベントの開催 (市外在住者も参加する田植え、稲刈り体験など)</li> <li>・試飲会の開催</li> </ul>
<p>7 連携している団体等</p>	<p><u>※活動主体と連携して取り組んでいる団体等について記載してください。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県気仙沼地方振興事務所</li> <li>・新みやぎ農業協同組合（南三陸統括営農センター）</li> <li>・宮城県酒造協同組合</li> </ul>
<p>8 特記事項</p>	<p><u>※当該活動に受賞歴等がある場合には記載してください。</u></p> <p>①福宿（気仙沼市産「蔵の華」100%） 2020年 全国燗酒コンテスト2020 プレミアム燗酒部門 金賞（福宿）</p> <p>②その他の気仙沼市産「蔵の華」使用酒 2018年 宮城県清酒鑑評会 県産純米吟醸酒の部 宮城県知事賞（最高賞） 蒼天伝 純米大吟醸 仕込み二十六斗瓶取り</p> <p>2022年 全米日本酒鑑評会大吟醸B部門 銀賞 蒼天伝 純米大吟醸</p> <p>※以上、気仙沼産「蔵の華」100%使用 2023年 Kura Master 2023 純米大吟醸部門 プラチナ賞 水鳥記 純米大吟醸 蔵の華 四割四分</p> <p>※以上、気仙沼産「蔵の華」一部使用 その他、国内外での受賞歴多数</p> <p>(2) メディア紹介 <u>※各種メディアで紹介された実績を記載してください。</u> 2023年5月 仙台放送、BS12ほか</p>

		田植え体験会に関する紹介  2023年10月 BS12 稲刈り体験会に関する紹介（予定）
(3) 活動資金 ※右記の該当する欄に○をつけてください。		国、県、市町村等の補助事業 事業名：
		民間団体・企業からの助成
	○	自己資金・その他（                      ）
(4) 実績値	※実績値が明らかな場合は別表に数値を記載してください。	

別表 地産地消部門

1 過去5年間の活動実績

※実績を示す数値が複数ある場合は、それぞれの実績を記載してください。

( 原料米 「蔵の華」 )

	主な農林水産物の種類	取扱量	取扱額 (千円)	施設の場合の利用人口 (入込数、給食者数等)
2018 年度	酒造好適米「蔵の華」	非公開情報	非公開情報	
2019 年度	酒造好適米「蔵の華」			
2020 年度	酒造好適米「蔵の華」			
2021 年度	酒造好適米「蔵の華」			
2022 年度	酒造好適米「蔵の華」			

※年度により異なる等級が混在するため、平均単価 5,000 円/30 kg とした概算値

( 気仙沼市産「蔵の華」使用酒のうち、「福宿」 )

	主な農林水産物の種類	取扱量	取扱額 (千円)	施設の場合の利用人口 (入込数、給食者数等)
2018 年度	福宿	非公開情報	非公開情報	
2019 年度	福宿			
2020 年度	福宿			
2021 年度	福宿			
2022 年度	福宿			

※多くの酒販店にまたがり、商品ラインナップも多数であることから、取扱量は 100L 単位、額は 100 万円単位の概数とした。

2 全体の合計額

	取扱額 (千円)
2018 年度	非公開情報
2019 年度	
2020 年度	
2021 年度	
2022 年度	